



水害時のもしもに備えるため、危険な場所を撮影する準備をしよう！

てづくりハザードマップのまち歩き作業。まずは...

1, 2の準備ができたなら...

危険な場所などを撮影して投稿！ スマホを設定して、まち歩きしよう。

1. 作業の前に。手づくりハザードマップって、なに？

(1) 手づくりハザードマップって？

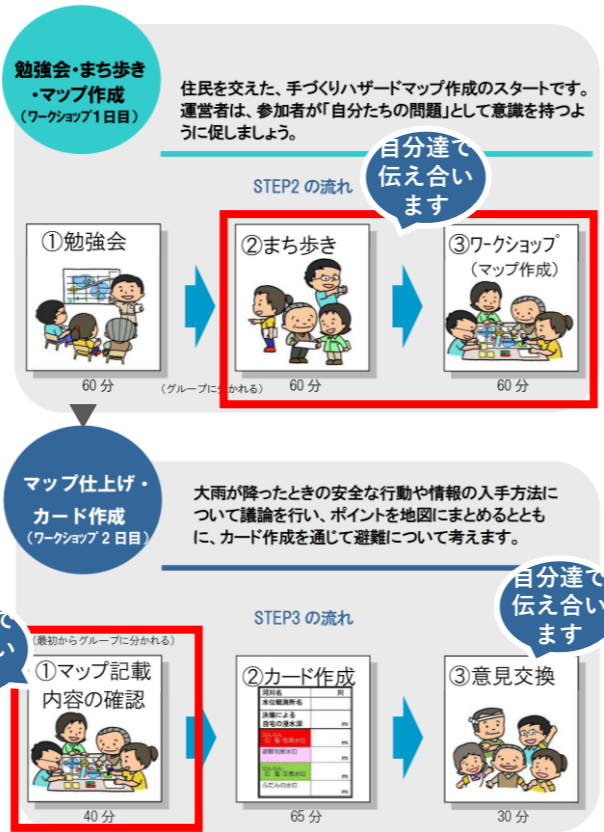
・一宮市から各世帯に配布されている水害ハザードマップを、自らのこととして理解し、マップの活用に際して的確な判断ができるように、東小路・中小路のみんなでもち歩きを行い、経験した水害の話や、大雨のときに注意すべきことなどについてまとめるものです。水害に強い地域づくりとなることが目的です。

・まとめたこと、水害時にどう避難するべきか、東小路・中小路のみんなでもち歩きを考え、伝え合います。

(2) みんなで何をするの？

・まず、各自でまち歩きをおこなってもらいます！
通常はグループに分かれて、みんなで歩きながら写真を撮りながら、会議室に集まって地図を作っていきます。みんなで集まり、みんなで写真の場所を思い出しながら地図を作りますので、集まったり（写真の場所を）忘れてしまうなど、負担がかかります。

ただし！我々NPOはこの手間をスマホをつかって減らしていきます。スマホをつかって各自で写真を撮り、こちらで地図にするので、集まったり忘れてしまう負担がなくなります。



2. まち歩きの前に。スマホの設定をしましょう！

★写真に位置情報が載るように設定します。

【注意！】できていないと地図化できなくなります。必ず行って下さい。

- ★androidの場合
- ①位置情報をチェック。
 - ②カメラ設定で位置情報を保存にチェック。



- ★iOSの場合
- ①位置情報をチェック。
 - ②カメラ設定で位置情報を保存にチェック。
 - ③カメラ設定でフォーマットを互換性優先にチェック。

3. まち歩きを行って、危険な場所などを撮影しよう！

空いた時間で東小路・中小路地内で下記の箇所を撮影していきます。※注意！位置情報設定を忘れずに行うこと。

★浸水の様子や一時避難所



①地域の中で早く浸水する箇所
避難時に避けるべき箇所。一方で、地域の危険を知らせる信号にも。この箇所が浸水したことを地域全体で共有できると、地域の安全確保に役立ちます。

②一時避難できそうな高い建物
ゼロメートル地帯など、地域全域が浸水する可能性のある地区では、一時避難は非常に有効。

実際に歩くときは...
★堤防高や標高を意識しましょう！
★水の来る方向を常にイメージしながら歩きましょう！

★避難の際に危険となる箇所



③凸部分
浸水時に危険となる突起物。浸水すると足元は見えなくなり、このような突起物はつまずく危険があります。

④凹部分
フタの無い側溝・小河川、マンホールなど。浸水して足元が見えなくなり、小河川に流されて命を落とすケースが見られます。フタの空くマンホールなどにも注意してください。

⑤水が流れている箇所
水が溢れやすい箇所ので、避難の際に足元をすくわれる可能性があります。

4. 撮影した写真を投稿しよう！

下記サイトで、写真やコメントを投稿します。



- ・メールアドレス
- ・お名前（ハンドルネームでも可能）
- ・所属町内会
- ・写真の特徴（上記の6つのうち、どれか）
- ・コメント（必要に応じて）

東小路・中小路の手づくりハザードマップ専用サイトはこちらから。

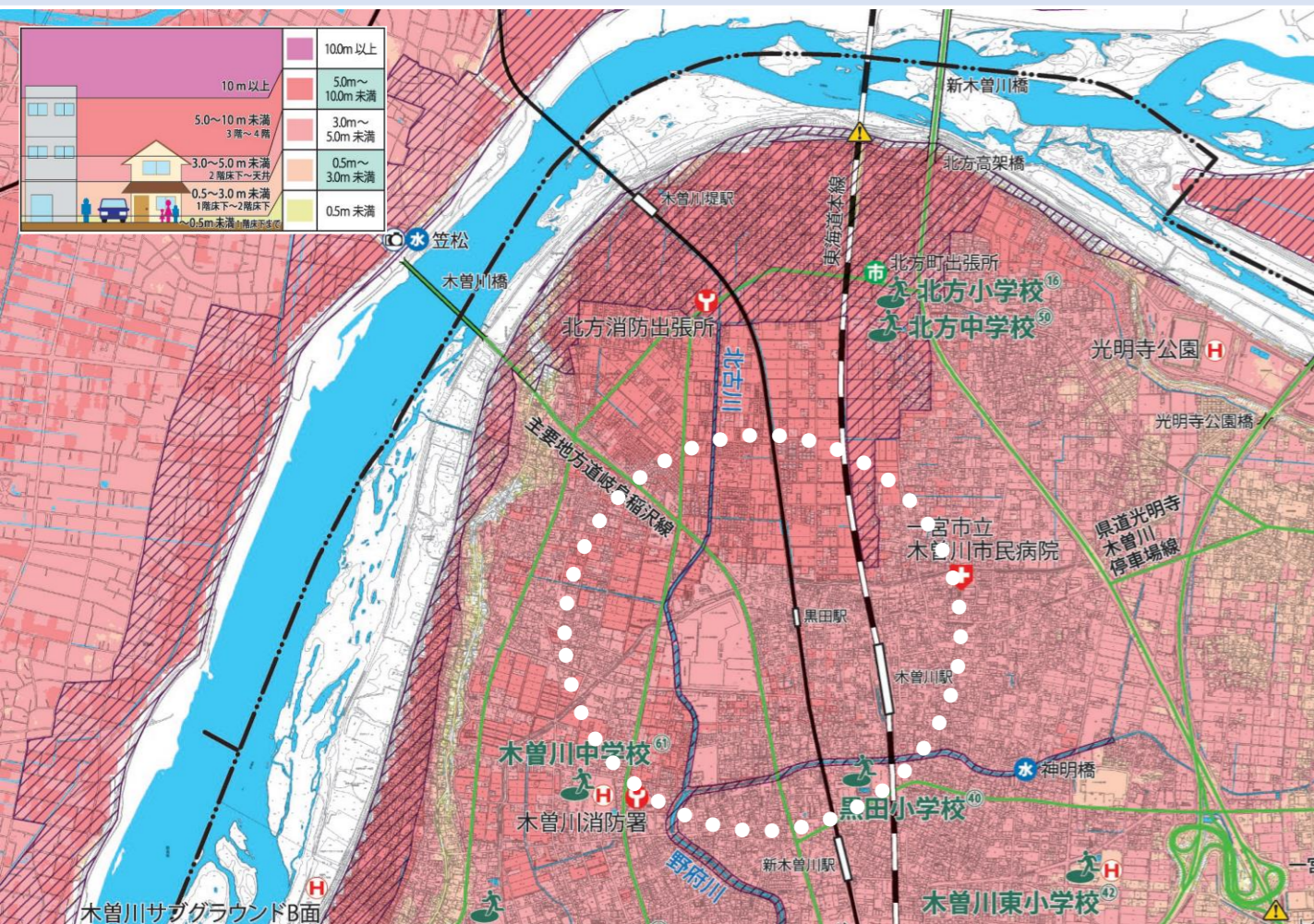


- ・位置情報の設定、まち歩き結果が確認できます。
- ・ブックマークを！



歩いて撮影する前にチェック！東小路・中小路、まち歩きのポイント。

ほっぶ。まずは、東小路・中小路で想定される水害の特徴を理解しよう！



★ 東小路・中小路で想定される、木曾川からの水害の特徴

- ・木曾川の氾濫により地域一体が3～5m浸水します。
- ・浸水は概ね1日程度で解消されます。
- ・>黒田小学校だけでなく、安全に避難できる高いところを把握しておく必要があります。

すてっぶ。安全な避難場所を探そう！

市の指定避難所として黒田小学校（4階以上）が使えますが、収容人数は限られると思われる。

また、過去の水害から、小学校手前の野府川で浸水履歴があります。

そのため、水害ハザードマップ上、浸水しない所又は浸水が浅い所（標高が高い所）で「②一時避難できそうな高い建物（※）」を探してみましょう。

※浸水は概ね24時間以内に解消が想定されるため、急場を凌げる場所で大丈夫です。

★浸水の様子や一時避難所



①地域の中で早く浸水する箇所
避難時に避けるべき箇所。一方で、地域の危険を知らせる信号にも。この箇所が浸水したことは地域全体で共有できると、地域の安全確保に役立ちます。



②一時避難できそうな高い建物
ゼロメートル地帯など、地域全域が浸水する可能性のある地区では、一時避難は非常に有効。

実際に歩くときは...
★堤防高や標高を意識しましょう！
★水の来る方向を常にイメージしながら歩きましょう！

★避難の際に危険となる箇所



③凸部分
浸水時に危険となる突起物。浸水すると足元は見えなくなり、このような突起物はつまずく危険があります。



④凹部分
フタの無い側溝・小河川、マンホールなど。浸水して足元が見えなくなり、小河川に流されて命を落とすケースが見られます。フタの空くマンホールなどにも注意してください。



⑤水が流れている箇所
水が溢れやすい箇所です。避難の際に足元をすくわれる可能性があります。

じゃんぶ。避難する際に危険となる箇所を探そう！

黒田小学校や各自で探し当てた安全な避難場所へ向かう道で「①地域の中で早く浸水する箇所」、「③凸部分」、「④凹部分」、「⑤水が流れている箇所」を探してみましょう。

気になることをメモしておこう！